

令和2年度 事務事業マネジメントシート

		事務事業No.		10-	6
事業名	認知症総合支援事業（介護特会）	会計	款	項	目
		特会	3	3	7
施策	2 人にやさしいまち	課名	健康長寿課		
	2-2 支えあいを実感できるまちをつくる	係名	高齢福祉係		
	2-2-3 高齢者福祉の推進				
主要施策	②地域支援事業の推進	⑥高齢者が住みよい安心なまちづくりの推進			

1 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	65歳以上の高齢者	目的（対象がどのような状態になっているか）	認知症の人とその家族を支えるため、地域の医療機関をはじめ、地域の関係機関と連携した体制を構築することにより、住民誰もが認知症になっても、できる限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援・・・地域包括支援センターに設置した「認知症初期集中支援チーム」により、認知症（疑いを含む）の人や家族への早期対応・早期支援を実施する。 ・認知症カフェ・・・認知症の人の家族に対する支援の推進としてカフェを開催する。 			

2 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

		指標名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	目標方向	令和2年度（目標）
指標	1	認知症地域支援推進員相談件数	208	195	261	件	→	320
	2							
	3							
	4							
	5							
			令和元年度（決算）		令和2年度（決算）		令和3年度（予算）	
全体事業費（千円）A+B			5,985		14,176		5,435	
財源内訳	直接事業費A		2,715		11,170		2,225	
	うち一般財源		2,715		11,170		2,225	
人件費（千円）B			3,270		3,006		3,210	
内訳	一般職員（人・千円）		0.37	2442	0.33	2178	0.35	2,310
	臨時職員（人・千円）		0.46	828	0.46	828	0.5	900

3 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善<※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性は高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		町関与の必要性	A 町が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充（事業内容を現在の規模を超えて拡充すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①R2年度の改善計画	地域包括支援センターが2か所になったことにより、資質の向上及び平準化を図るための、テーブルミーティングなどを開催する。	③取組の課題	認知症の方が気軽に参加し、活躍できる認知症カフェに見直す必要がある。
②R2年度に実施した取り組み	月1回認知症地域支援推進員を中心として、テーブルミーティングを月1回開始した。認知症カフェについて、課内会議にて検討した。	④今後の改善計画	認知症大綱に基づいた認知症カフェの開催と認知症サポーターのフォローアップ研修を実施する。